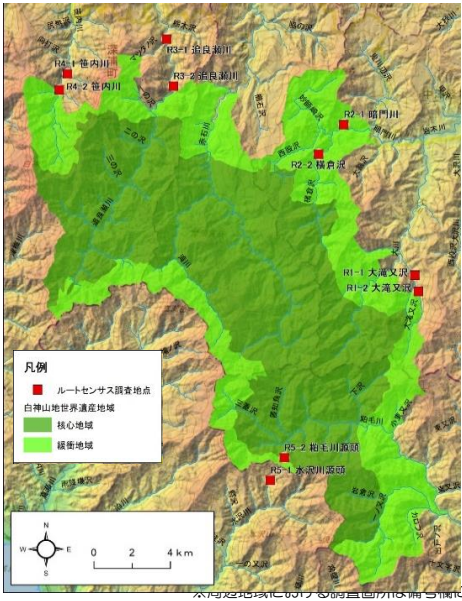


ID ^{注1)}	231107	公開レベル ^{注1)}	C	保管形式 ^{注1)}	紙・電子	保管場所 ^{注1)}		前回ID	221107
-------------------	--------	----------------------	---	---------------------	------	---------------------	--	------	--------

報告書名称 / 調査名称	令和4年度 白神山地ニホンジカ対策 植生ルートセンサス調査						発行年月/報告年月		
							2023年	3月	
							資料形式 ^{注2)}	報告書	
調査機関	東北地方環境事務所			委託機関					
調査開始年	2015年	4月	調査期間	2022年	9月	～	2022年	10月	
調査頻度 ^{注2)}	毎年	—	調査時期 ^{注2)}	通年	—				
モニタリング計画	2022年7月	改訂	区分 ^{注2)}	ⅡB	大区分 ^{注2)}	2	小区分 ^{注2)}	(3)	
調査箇所・範囲 ^{注3)}				調査手法					
☒ 核心地域 ☒ 緩衝地域 ☒ 周辺地域 ☐ GPS等の位置データあり				<p>《これまでに実施した調査項目及び調査方法》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライトセンサス (2016～2018年) ・ボイストラップ調査 (2018～2022年) ・越冬適地解析 (2019年) ・ルートセンサス調査 (2020～2022年) ・スポットセンサス調査 (2020～2021年) ・広域食痕調査 (2022年) <p>《2022年の実施内容》</p> <p>【ルートセンサス調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●令和3年度実施区間のうち、食痕がほとんど見られなかった尾根部の区間及び林道閉鎖によりアプローチできなくなった区間を除外した10区間について、ルートセンサスを実施した。 ●各地の林道閉鎖の影響で調査時期は9月～10月と例年より遅い時期の実施となった。 <p>※この他にニホンジカ対策として以下の調査を実施した。</p> <p>【ボイストラップ調査】(業務委託) ※メンテナンスは環境省職員実行</p> <p>【広域食痕調査】(業務委託)</p>					
									
結果概要 (スペースに収まるように入力してください)									
<p>【食害の程度】</p> <p>多くの区間では食害頻度が1%未満で食害強度も1であったが、一部区間では食害頻度が1～10%、食害強度が2となっていた(図1)。</p>			<p>【食害頻度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1%未満 ・1～10% ・10～25% ・25～50% ・50%以上 		<p>【食害強度】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1:ごく僅かな食害 2:大半の株は、成長や繁殖に支障をきたさない程度の軽度の食害 3:一部の株に強度の食害や矮性化がみられるが、群落レベルの衰退はない。 4:一部では群落レベルで、強度の食害や矮性化が生じている。 5:多くの群落が強度の食害を受けており、群落の消失が危惧される。 				
									
シカ類の食痕(ムカゴイラクサ)			シカ類の食痕(ウワバミソウ)		シカ類の食痕(キツリフネ)				
<p>東北地方環境事務所 西目屋自然保護官事務所</p> <p>〒036-1411 青森県中津軽郡西目屋村大字田代字神田61-1</p> <p>TEL:0172-85-2622 FAX:0172-85-2635</p> <p>《原本(データ)の帰属について》</p>									

注1) 「ID」「公開レベル」「保管形式」「保管場所」については記入しないこと。

注2) ドロップダウンリストから該当する項目を選択すること。

注3) 該当する項目の口をクリックし、チェックを入れる。

【食害程度の経年比較】
食害株数、頻度及び強度について、今年度実施した10区間を対象に令和2年度及び令和3年度の調査結果との比較を行った（表1、図1）。

《食害株数》
区間全体では、令和2年度から令和3年度で大きく増加したものの、令和4年度に減少した（図2）。なお、令和4年度の株数減少については、豪雨被害による記録の減少もあると考えられるため、シカ等の利用が減少したとは断定できない。

《食害頻度》
いずれの年も10%未満と評価されており、現状ではシカ等による利用の程度は低いといえる。なお、令和4年度の河川区間については、豪雨影響により植生が著しく少なくなっている箇所があり、【R3-2追良瀬川】のように頻度の評価に影響した可能性があることに留意する必要がある。【R4-2笹内川】では3年とも食害頻度が1～10%となっており、調査区間の中では比較利用頻度が高い地域であることが示唆される。

《食害強度》
いずれの年も食害強度「3」以下となっており、群落レベルでの衰退は観察されていない。令和4年度は株元まで食害されるような事例は確認されなかったものの、過年度に高い食害強度が記録されている地点については、今後も注意す

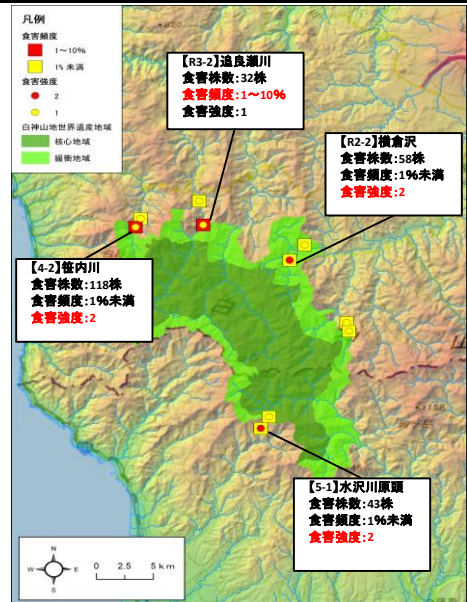


図1 ルートセンサスの位置及び食害の程度

表1 食痕株数・頻度・強度の経年比較

県		青森県側							秋田県側		
河川・登山道名		大滝股沢		暗門川	横倉沢	追良瀬川		笹内川	水沢川源頭	粕毛川源頭	
区間No	R1-1	R1-2	R2-1	R2-2	R3-1	R3-2	R4-1	R4-2	R5-1	R5-2	
食害株数 (株)	R2	2	40	—	15	12	8	1	55	—	29
	R3	478	656	8	0	27	55	39	711	99	5
	R4	27	27	15	58	7	32	87	116	43	1
食害頻度 (%)	R2	～1	1～10	—	～1	～1	～1	～1	1～10	—	1～10
	R3	1～10	1～10	～1	～1	～1	～1	～1	1～10	1～10	～1
	R4	～1	～1	～1	～1	～1	1～10	～1	1～10	～1	～1
食害強度	R2	1	3	—	1	1	1	1	3	—	2
	R3	2	2	1	1	1	1	1	3	2	1
	R4	1	1	1	2	1	1	1	1	2	1

着色部は、食痕株数が多かった区間、食害頻度が1%以上の区間、食害強度が2以上の区間をそれぞれ示す。

令和2年度は【R2-1暗門川】及び【R5-1水沢川源頭】にて調査が行われていない。

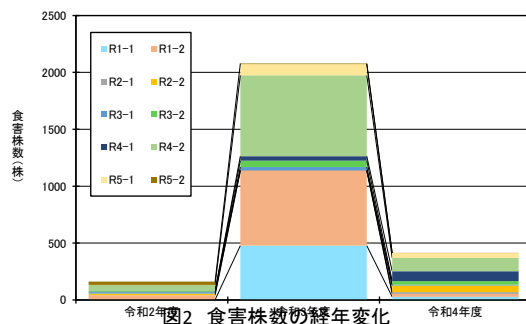


図2 食害株数の経年変化

【嗜好性指標種について】
令和3年度報告書にて白神山地指標植物が選定されたが、調査データが十分でないことから、調査データを蓄積し、より妥当な指標種を選定することが望まれている。今年度の調査結果を踏まえて指標植物について再検討したが、令和3年度と比べて食害株数の記録が大きく下回ったことから、指標種は令和3年度に選定したものから変更しないこととした（図2）。

【不嗜好性指標種について】
令和3年度報告書では、白神岳山頂でのスポットセンサス結果及び文献情報から不嗜好性指標種を選定している。これら指標種はその後の調査の中で生育状況の変化を継続観察し、実際の不嗜好性の正否を確認するとされている。
今年度のルートセンサスでは、シラネワラビ、シュウモンジシダ、ススキ、コチチミザサの4種を確認した(表2)。これらのうち、食害が確認されたものはシュウモンジシダのみであり、確認株数に対してごく少数であったことから、今年度の結果からも嗜好性が低いことが示されている。
今後シカによる食害が拡大した場合に他の植物種に比べて減少しづらい、または、増加するといった異なる動態を示す可能性がある。指標種としての妥当性の検討も含めて、今後も記録を続けていくことが望ましい。

No.	科名	種名	不嗜好性指標種		R4ルートセンサス結果	
			白神岳山頂草地	区分なし(文献情報)	確認株数	食害株数
1	コバノイシカガマ	ワラビ		○		
2	ヒメシダ	ミゾシダ		○		
3	オシダ	シラネワラビ		○	3000	
4	オシダ	シュウモンジシダ		○	617	7
5	センリョウ	ヒトリシズカ		○		
6	センリョウ	フタリシズカ		○		
7	シュロソウ	コバイケイソウ	○			
8	ユリ	カタクリ		○		
9	イネ	ススキ		○	51	
10	イネ	コチチミザサ		○	8※	
11	キンボウゲ	ニリンソウ		○		
12	ユズリハ	エゾユズリハ		○		
13	ミカン	ツルシキミ		○		
14	ミカン	サンショウ		○		
15	キョウチクトウ	イケマ		○		
16	シソ	クサギ		○		
17	シソ	ナギナタコウジュ		○		
18	キク	トウゲブキ	○			
19	ガマズミ	ニワトコ		○		
計		14科19種	2種	17種	4種	1種

※：コチチミザサを指標種として選定し、令和4年度ルートセンサスでの確認状況